



反省と発見

今年の年賀状に無意識にGreat Hopeと書きました。すると、5月に敬愛する常深信彦兄から、「わたしの幸せあなたの幸せ」の改訂版を書くように勧められ、それに挑戦することになりました。8月を目標にしていたのですが、12月18日現在入稿できていません。月の3分の2はこの書の改訂に費やしてきましたが、5倍の努力では追いつかず、10倍の忍耐と努力が必要になっています。タラントが人並み以下であることは自覚していましたが、甘い見積もりが積もらず、筈が外れてしまったわけです。容赦ない加齢が怒濤のように迫っていることも実感しています。

もう一つ遅れた原因は、知識欲が旺盛であったことです。知識欲は、より広く、より深く、より正確に、を求めます。妻からは「もういい加減にしないで。欲を捨てなさい」と毎日のように戒めを受けています。

「われわれは確実に知ることもできないし、完全に無知であることもできない」というパスカルの言葉の狭間に入って、欲と闘うことになったわけです。

「既知」の領域が拡大するにともなって、「未知」の領域が狭（せ）ばまってゆくどころか、逆にかえってそれは正比例的に拡大することも実感しています。

折々のことば（朝日新聞朝刊）からの引用です。

知らない諸事が見えてくると、従来理解では説明できないことも増える。それらをも説明できる視点に移行すれば、新たな問題のみならず、すでに解決済みの問題まで改めて浮上ってきて、事態はいつそう複雑になる。優れた科学者がときに宗教へと「転向」したのもここに理由があると批評家林達夫は言う。評論集『歴史の暮方』から。（鷲田清一）この哲学者の文章の先見性も凄いです。偉い方々は、何事もお見通しのようです。

学生時代に私は二人の恩師から、次のような内容の警告を受けています。「自然科学と違って、社会科学に発見というものは無い。我々が新発見と思いが上がっていても、それは先人がどこかで既に言っている。我々はそれを発見するにすぎない。思い上がらず謙遜に探求すべきである」この言葉は現役時代には呪縛のように付きまとい、又、大言壮語から私を守ってくれました。私の原点旅の志向も、知的忍耐力もここにあると考えています。

今回の改訂作業では常深大兄の暖かいご指導を頂き、より正確に、よりやさしくという観点から進めてきました。ゴール間際に、大発見がありました。これで忍耐が練達を超え喜びに変わりました。その喜びを年末にとどめ置くことができる幸せを、歓喜の歌に合わせて記したいと思います。

「コミュニケーションの決定権は受け取る側にある」の再考察

私はこの「コミュニケーションの決定権は受け（手側）取る側にある」という言葉を

師岡野嘉宏先生から教わりました。師がこの文章には括弧をつけて記しておられるので何度かその理由を尋ねました。初めは謎解きのようなお答えを頂きましたが、20年過ぎて「あの言葉は本からではなく、米国で学んでいたときアメリカ人の講師が「ある学者の言葉」として話した内容をメモしたものだ」と教えて下さいました。その後も、私はこの括弧には意味がある、どこかにあるはずだと探し求めていました。2018年12月8日について発見しました。

「スコラ哲学の泰斗（その道の大家として仰ぎ尊ばれる人）トマス・アクイナスに Quidquid recipitur, recipitur in modum recipientis という言葉がある。受け入れられるものは、すべて何でも、それを受け入れる側の様態に従って受け入れられる、というほどの意味であるが、このアリストテレスからトマスが受けついで言葉には深い真理がひめられているように思う」（井上洋治著作集第9巻p29）

この原典は紀元前4世紀に遡ることになるようです。

アリストテレス（前384年 - 前322年3月7日）は、古代ギリシアの哲学者である。

プラトンの弟子であり、ソクラテス、プラトンとともに、しばしば「西洋」最大の哲学者の一人とされ、その多岐にわたる自然研究の業績から「万学の祖」とも呼ばれる。アリストテレスは、人間の本性が「知を愛する」ことにあると考えた。ギリシャ語ではこれをフィロソフィア（Philosophia）と呼ぶ。フィロは「愛する」、ソフィアは「知」を意味する。この言葉がヨーロッパの各国の言語で「哲学」を意味する言葉の語源となった。

トマス・アクイナス（1225頃—1274）イタリアの盛期スコラ学最大の哲学者、神学者。

ドミニコ会士。主著には『神学大全』『対異教徒大全』がある。

井上洋治（1927—2014）東京大学哲学科を卒業、1950年フランスに渡る。船の中で偶然、遠藤周作と邂逅し終生同じ使命を果たす。カルメル修道会に入会、修道のかたわらリヨン、リールの各大学で学ぶ。1960年司祭となる。1986年より「風の家」を始める。著書多数

今ひとつ岡野師から括弧付きの名文を受け継いでいます。それは自己実現の定義です。

これほど明確な定義を私は寡聞にして知りませんが、師は遠慮がちに、「TAの狙いとするところは」と書き出しています。『自分自身が、本来もっている能力に気づき、その能力の発揮を妨げているいろいろな要因(に気づいて、それを)を取り除いて、本当の自分の可能性を実現して生きること』（括弧は小原による）

ここでは自己実現という言葉は用いられていませんが、それほどに自己の定義は難しいということです。自我実現は沢山の人がしていることは万人が承知していることです。

今回の改訂での学びで、ほぼ誰の考えであるかは分かりましたが、もう少し追及してみたいと思い改訂版を進めています。

パリ通信は18日から先週テロ事件がありましたストラスブールに行き、その感想を書いてくれます。